

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	音響数値解析小委員会	主 査 名：富来礼次 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：羽入 敏樹
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・建築設計や音響設計の現場で数値解析技術を応用する際に必要な情報を収集し整備するとともに、新たな適用可能性への科学的展開を企図する。</p> <p>・研究を推進し成果を持ち寄り議論することで学術基盤を整備する。</p> <p>・HP の更新・整備、技術的基盤の収集・評価を行う。</p> <p>初年度：HP の更新・整備、技術的基盤の収集・評価。</p> <p>2 年度：HP の更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。</p> <p>3 年度：HP の更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。</p> <p>4 年度：HP の更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：富来礼次 (大分大学)</p> <p>幹事：奥園健 (神戸大学)、安田洋介 (神奈川大学)</p> <p>委員：朝倉巧 (東京理科大学)、大嶋拓也 (新潟大学)、岡本則子 (大分大学)、石塚崇 (清水建設技研)、井上尚久 (前橋工大)、坂本慎一 (東京大学)、佐久間哲哉 (東京大学)、鈴木久晴 (日本エヴィクサー)、豊田政弘 (関西大学)、平川侑 (建築研究所)、星和磨 (日本大学)、吉田卓彌 (安藤・間技研)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	音響数値解析ソフトウェアの開発・普及 WG:音響数値解析手法・実装技法の解説資料, レファレンスコード整備	
2020 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無
講習会	無
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無
大会研究集会	無
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. 室への吸音材の配置による音声伝送の変化などを解析し、可聴化など建築音響の専門家以外にわかりやすい形で提示する「シミュレーション活用データベース」について、問題案や解析事例に関する議論を行った。当初の計画としては問題案の検討と解析事例の収集であったが、複数の具体的な解析事例と提示方法の例が報告された。</p> <p>2. 書籍刊行について、2011 年に出版した「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」から周辺技術の進歩や適用事例の増加に対応した第二版の刊行に向けて刊行小委員会を設置した。原稿管理のサーバを立ち上げるとともに、刊行スケジュールについて提案し、了承された。</p> <p>3. 本年度のシンポジウム開催に向けて検討を行ってきたが、新型コロナの影響を受け、来年度以降に延期とした。感染拡大状況が収まっておらず、開催時期の決定は難しいが、シンポジウム内容については継続して議論を行った。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 上記 1.について、多種の解析事例の報告がされ、活発な議論が行われたものの、データベース使用者の視点からは、混乱を招く可能性もあるため、データベースとしてまとめる段階では事例をさらに整備する必要がある。今後、可聴化も含め、どのようにまとめていくかについて議論が必要である。</p> <p>2. 上記 3.について、新型コロナが収束する時期が予想できず、開催時期を決められない。また、協働して実施する測定等も、移動が制限されている中で、計画ができない状況である。</p>

## 2020 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・室への吸音材の配置による音声伝送の変化などを解析し、可聴化など建築音響の専門家以外にわかりやすい形で提示する「シミュレーション活用データベース」について、当初の計画としては問題案の検討と解析事例の収集であったが、複数の具体的な解析事例と提示方法の例も報告され、それぞれ委員会で議論が行われた。</p> <p>・書籍刊行について、2011年に出版した「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」から周辺技術の進歩や適用事例の増加に対応した第二版の刊行に向けて刊行小委員会を設置し、原稿管理のサーバを立ち上げるとともに、執筆者および刊行スケジュールについて確定した。執筆も既に開始されている。</p> <p>・中間年度までのシンポジウム開催に向けて準備を行ってきたが、新型コロナの影響を受け、中間年度以降に延期とした。また、シンポジウム発表内容として検討していた実測についても、延期されている。現在も感染拡大状況が収まっておらず、開催時期の決定は難しいが、シンポジウム内容については継続して議論を行うこととした。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。